

広報九州



令和4年6月10日
(2022年)

No.1804

九州森林管理局

〒860-0081
熊本市西区京町本丁2-7
IP電話:050-3160-6600(代表)
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>

森林・林業・木材産業による 「グリーン成長」を支える九州の国有林 〜令和4年度重点取組事項〜

4月18日九州森林管理局では、「森林・林業・木材産業による「グリーン成長」を支える九州の国有林」と題し、重点3課題と8つの取組から成る令和4年度の重点取組事項について記者発表を行いました。

九州森林管理局の令和4年度重点取組事項は以下の通りです。

課題1 「伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」への貢献」

取組① 需給動向に応じた木材の安定供給と生産性向上に向けた担い手の育成

- ・ウッドショック等の木材需給の変化を踏まえ、地域の木材需給の安定に資するために、国有林材の供給調整を機動的に実施。
- ・森林整備と木材の安定供給を支える担い手の育成を図るため、生産性向上の取組等により素材生産の効率化や高付加価値化に取り組

む林業経営体を支援。さらに、樹木採取権の設定により長期安定的な事業機会を提供し、意欲と能力のある林業経営者等の担い手を育成。

取組② 再造林コストを低減できる造林技術の確立と普及

- ・各地で伐採面積が増加する中、確実な再造林に向け、国有林のスケールメリットを活かして先駆的手法を積極的に実証・導入し、低コスト造林技術を確立するとともに、これら技術の民有林への普及に取り組む。
- ・特に、成長に係る特性の優れた特定母樹由来の中苗の活用拡大、シカ柵設置の低コスト化、長方形植えと筋刈りの普及により、植栽から下刈りに至る再造林コストの低減を目指す。

取組③ デジタル技術等の積極的な活用による事業の高度化・効率化

- ・現在、森林・林業・木材産業の分野においても、リモートセンシング等の新たな技術を積極的に活用する取組が進展。
- ・ドローンや地上レーザ等を活用し、森林調査や災害復旧、地域情報等を把握し、事業の高度化・効率化を推進。

課題2 「公益重視の管理経営」

取組④ 地域の安全・安心確保に向けた国土保全

- ・地域の安全・安心の確保に向けて、治山ダムの計画的な設置や保安林整備、山地災害危険地区における治山事業実施率の向上、海岸防災林の整備等の事前防災・減災対策を推進。
- ・山地災害発生時には、ヘリコプターによる被災状況調査等を迅速に実施すると共に、早期の災害復旧に取り組む。特に被害が大きかつ



説明する一重課長



局関係者の皆さん

た平成29年7月九州北部豪雨及び令和2年7月豪雨においては、引き続き民有林直轄治山事業を実施

取組⑤ 保護林の設定による世界自然遺産等の生物多様性の保全

・森林生態系や希少な野生生物の保護を図るために、特に優れた自然環境を有する国有林を保護林に設定し、モニタリング調査等を通じた順応的管理を実施。このうち重点的にシカ被害対策を実施する保護林を17箇所選定し、順次シカネットを設置。

・九州にある2つの世界自然遺産地域は、いずれも、その多くが国有林内に所在しており、引き続き、



出席頂いた記者の皆さん

適切な保護・管理を推進。

取組⑥ あらゆる手段を駆使したシカ捕獲対策の強化

・ニホンシカの生息域の拡大による森林被害は深刻であり、林業経営や、森林の公益的機能の発揮にも影響。

・地元市町村・猟友会等とのシカ被害対策協定締結や、新たなシカ捕獲技術の導入等により、シカ捕獲対策を強化。

課題3 「組織・人材・フィールドを活用した地域の課題解決への貢献」

取組⑦ 森林経営管理制度を踏まえた市町村等の森林・林業行政への技術支援

・森林経営管理制度及び森林環境譲与税の導入を踏まえ、市町村職員の研修への参加受入れ、フォレスト+等推進会議の開催、技術支援情報サイトの開設・運用、森林計画策定等への支援等の市町村の森林・林業行政等に対する技術的な支援を実施。

取組⑧ 観光資源としての森林空間・森林景観の活用促進

・優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察等に適した国有林

をレクリエーションの森に設定し、保健休養の場として提供。このうち、特に景観等の優れた箇所については、「日本美しの森 お薦め国有林」として重点的な環境整備等を実施。

・観光資源としての活用が期待される「日本美しの森 お薦め国有林」の活用促進に向けて、農泊事業者等への情報発信を実施。

（再掲）取組⑥あらゆる手段を駆使したシカ捕獲対策の強化

その後の質疑応答では、ウッドショック等の変化を踏まえた木材価格の変動の見込み、再造林の技術確立と普及状況、シカ被害や新しいシカ捕獲技術の取組状況、国有林材の供給調整等について質問があり、局長及び担当部長より回答し、取組に対する理解を深めて頂きました。

※令和4年度重点取組事項は、左記のURL、QRコードもしくは九州森林管理局HPのキーワード「九州森林管理局の重点取組事項」からご覧になれます。

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/saisei_plan/jyuten.html



（担当Ⅱ企画調整課）

「虹の松原」松くい虫防除（空中散布）を実施

【佐賀森林管理署】

5月24日、佐賀県唐津市の「虹の松原国有林（約210haのうち約143ha）」で関係行政機関、地元団体等の御理解と御協力をいただき松くい虫特別防除（空中散布）を実施しました。

には約100万本の松が生育しているとされ、防災機能と併せて優れた景観から国の特別名勝、玄海国立公園、風致探勝林に指定され地域振興にも大きな役割を果たしており、地域住民、関係団体等が

この特別防除は、松の枯死の原因として大きく関わっているマツノザイセンチュウを運ぶ、マツノマダラカミキリを防除することを目的としています。昨年度は196本の松くい虫被害木が発生し、過去5年間の平均でも約200本の松くい虫被害木が発生しています。ピーク時の10分以下となっており近年は低水準に抑えられています。虹の松原は、約400年前に初代藩主寺沢広高が、潮風や飛砂から田畑、人家などを守るために海岸線の砂丘にクロマツの植栽を命じたと言われています。現在、虹の松原



空中散布の様子

協力し大切に引き継がれています。当署としましても、引き続きこの大切な松原の保全に取り組んでまいります。



空中散布の航路の確認



空からの事前打ち合わせ

平成新山防災視察登山に参加

【長崎森林管理署】

1991年6月3日に43人が犠牲になった雲仙・普賢岳の大火砕流から6月3日で丸31年が経とうとする中、一連の噴火活動でできた溶岩ドーム「平成新山」の防災視察登山が5月16日に実施されました。

防災視察登山は火山活動が収まった1995年5月から島原市と九州大学地震火山研究センターが主催し、溶岩ドームの現状を関係機関で共有しようとして、毎年春と秋に実施しています。31回目の今回は長崎森林管理署3名を含む、消防、自衛隊、警察、報道関係者など24

機関から約70人が参加しました。登山道にはこの時期見頃を迎えた色鮮やかな「ミヤマキリシマ」が所々に咲き誇っていました。途中からは登山道を外れ、普段は立ち入りが禁止されている普賢岳警戒区域内を進み、吹き出したマグマが固まってできた溶岩をよじ登って頂上を目指します。

3時間かけ登頂し、1,480mの山頂には地下から溶岩ドームを突き破って生じた柱状の溶岩がいくつも見られ、平成新山が活火山であることを示すかのよう。各所から噴気と呼ばれる生暖かい水蒸気が立ち上っていました。九州

大学清水洋名譽教授からこの噴気には微量ながらも人体に影響のある塩化水素ガスを含んでいることや山頂の東側の斜面には溶岩の堆積物があり、大きな地震や大雨等で外的な要因が加わると溶岩ドーム自体が崩れる可能性があり、山頂だけではなく幅広く島原の麓まで警戒区域を指定していると説明がありました。

往復、7時間の行程でしたが、好天にも恵まれ山頂から望む島原半島や熊本平野は格別なものでした。噴火から、30年以上経った今でも防災意識の大切さを改めて考える1日となりました。



警戒区域を進む一行



山頂で説明を受ける参加者



山頂の溶岩ドーム

虹の松原クリーン大作戦！ ボランティア活動に参加

【佐賀森林管理署】

5月14日、虹の松原（唐津市）において、NPO法人唐津環境防災推進機構KANNE主催による「Keep Pine Project」の虹の松原クリーン大作戦」が実施され、地元企業、唐津市内の唐津南高等学校、中学校、西九州大学、唐津市役所、一般ボラン



落枝、松ぼっくり拾い



松葉かきの様子



集めた松葉

ティア等約180名が参加して行われました。佐賀森林管理署からは、白石健二署長、植薄和彦地域林政調整官、志戸祐二森林官（家族で参加）も一般参加者に交じって参加し汗を流しました。当日は天候にも恵まれ、集合場所へ到着して受付を済ませた参加者は、今回の活動対象となってい

る浜崎森林浴の森公園西側へ移動し、地表に落ちていた枝と松ぼっくりを拾い集め、その後松葉かきと除草作業を行いました。今回行った作業箇所（約1ヘクタール）は松葉も多く雑草等の侵入もあり、作業が進むにつれ額に汗する参加者も多く見られました。また、作業終了後には、白砂が見えるようになり、ボランティア活動の成果が見られました。本日のクリーン大作戦に参加して、地元唐津市民をはじめとして多くの方の支えによって景観が維持されていると感じました。当署としては、今後も「虹の松原再生・保全」に取り組んでいくこととしています。

菊池溪谷で山開き

【熊本森林管理署】

4月7日、令和4年度の菊池溪谷の山開きが、菊池溪谷を美しくする保護管理協議会の主催により、当署の井上智晴署長など関係機関から約40名が参加して盛大に開催されました。

まず、神職による神事及び関係

機関による玉串奉奠が行われ、今シーズンの菊池溪谷内の安全が祈願された後、主催者を代表し協議会会長の江頭実菊池市長が「新型コロナウイルスの影響は大きく菊池溪谷を訪れる方が激減したが、コロナ後には菊池溪谷の価値や魅力に気づいてもらえらるはずだ」と挨拶、来賓として当署の井上智晴署長が「林野庁においては森林サービス産業の創出と推進に取り組んでいるところであり、当署としても菊池溪谷が更に発展するように全面的にバックアップして参りたい」と挨拶しました。

最後に新緑の合間から陽光が差す中、関係機関の代表者と山開き式に歌で花を添えてもらった菊池さくら保育園の園児とともにデー



挨拶する井上署長



代表者によるテープカット

訂正して、
お詫びいたします

広報九州（No.803号）5ページの「新任挨拶 よろしくお願ひします」の記事で地域木材情報分析官の猪島明久さんの前職を「大分西部森林管理署長」と掲載しましたが「大分森林管理署長」でしたので、訂正してお詫びします。



進 佳昭さん
しん よしあき

私の暮らす「みやこ町」は、福岡県東部の山間地にある人口1万8千人の町です。森林面積が町の面積の63%もあり、森林に囲まれています。町には森林組合も設立されています。現在でも林業が盛んに行われていて、京築（ケイチク）ヒノキというブランド木材にもなっています。2019年8月に新設された平成筑豊鉄道「令和コストア行橋駅」の手すりやベンチにも使われています。

私は定年退職になり、自分の時間を十分に持てるようになり、朝夕のウォーキングをするようになりました。歩くルートのは多くは、林道や森や池の周辺道路です。ウォーキングを始めるようになって、四季折々の山の変化を感じるとともに、山がもたらすさまざまな恵みの有り難さを考えるようになりました。毎年、春になると山菜（つくし、タラの芽、わらび、タケノコ）を人からいただくことで、改めて自然の豊かさに感謝できるようになりました。

そのような時に、インターネットで国有林モニターがあることを知り、何かできることがあるのではないかと、応募しました。その後、自分でも活動し、何かで

「山の恵みに感謝して」

きないだろうかと考えました。次世代の子どもたちへ森林資源の豊かさを伝えることができ、参加者とともに環境リサーチ隊やアクティブラーニングを体験できる観光ボランティアをするようになりました。今はまだ、自分自身で知識を吸収することが中心ですが、先輩の案内を参考にしながら、自分なりの案内ができればと思っています。

そして、国連サミットで採択されたSDGsが目標とする「陸の豊かさを守ろう」を念頭に置き、子供たちに森林減少を防ぎ、劣化した森林を回復させ、新たな植林や再植林の増加の重要性を伝えることが大切だと思っています。

この4月にモニターになったばかりで、モニターとしての活動をしていませんので、「活動内容や現地視察」などの詳しいことはわかりませんが、他のモニターの方々と意見交換や現地研修などを通して、次の世代へ森林保全の必要性と大切さを伝えることができればと思っています。

（福岡県みやこ町在住）



モニターの進さん

都会の中の憩いの森
 監物台樹木園の
 多様な植物



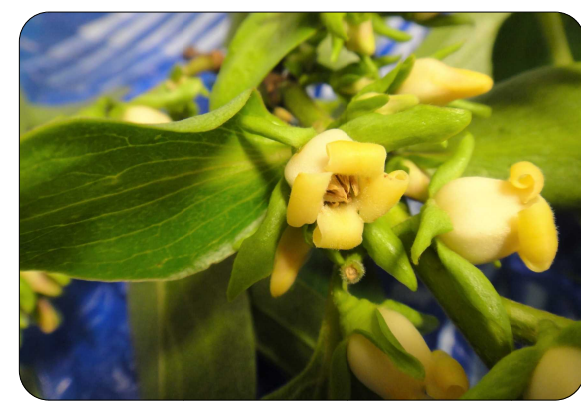
175 カキノキ (カキノキ科)

カキには渋柿と甘柿があります。中国から伝来したのは渋柿で、甘柿は日本で品種改良されました。日本には自生しておらず、奈良朝以前の遺跡にカキは出土していません。

渋柿は多量に含まれるタンニンが原因です。タンニンは防腐効果があり、

渋柿から取られたカキ汁は多量のタンニンが含まれ、タンニン(カキ汁)を紙に塗ったものを「渋紙」といい、水に強いので、傘、提灯などに使用されました。

渋紙は苗代を作る際の保温にも使用されました。魚網に柿渋を塗ると腐り



森林インストラクター
 安楽行雄

にくくなるし、建物の土台や雨戸などの濡れやすい場所にも防腐剤として塗布され利用されました。
 葉は広楕円形、倒卵形、卵状楕円形など上面は主脈上だけに毛があります。
 花は淡黄色、雌雄雑居性、6月に花が咲きます。
 果実是多肉な液果となり熟すと黄赤色となります。

名前は赤い実のなるさまから、赤き実あるいは、赤木が略されて「カキ」になった説が有力です。



とある市内からとある離島に異動になり、都会が大好きで休みの日は映画館に行ったり面白い物に出かけたりしていた私は、割と落ち込んだことを昨日のこのように感じている。

しかし、新任地の職務で山登りに参加し島の自然に圧倒され、自分がなぜ数ある仕事の中でこの仕事を選んだのかを思い出した。このことには恥ずかしながら本土の自然では気づくことができず、島の大半を占める力強く圧倒的な自然を目にしたため気づかされた。

今では、休日も山を登ったり海岸でキャンプをしたりと数か月前までは想像もつかないようなことを行っており、環境が変わるだけで人はここまで変わることができるのかと内心自分でも驚いている。

私は人事異動という半ば強制的な形で今までは全く違う環境に放り出されたが、これをお読みになっている方々は、ぜひ自ら離島や他省庁に異動先を希望したり旅行等で様々な場所に足を運び、自分という人間の新たな一面を発掘してみたいかがでしょうか。

【い】